

東 洋 に 触 れ る 、 東 洋 を 学 ぶ 。

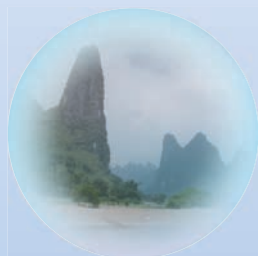


◆ 東洋研究学域

中国文学専攻

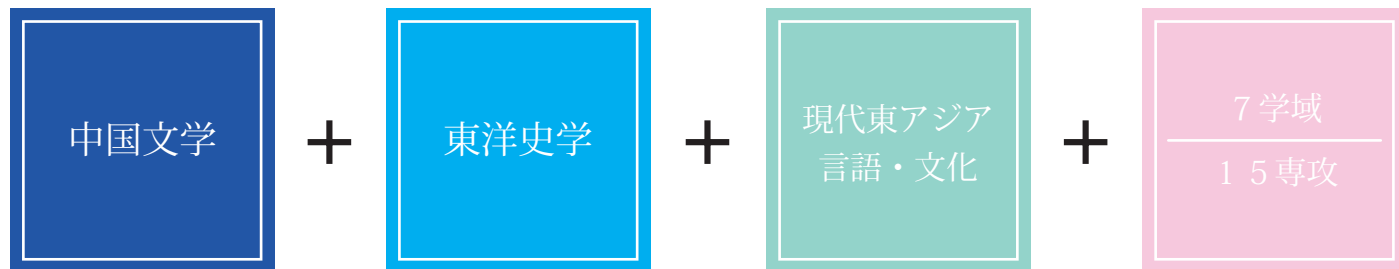
東洋史学専攻

現代東アジア言語・文化専攻



学域概要

東洋研究学域は、中国文学専攻、東洋史学専攻、現代東アジア言語・文化専攻で構成されます。アジア諸国の発展にともなって、わが国には現在、新たな国際戦略が求められています。中国・韓国を中心とする東アジア地域を地理的範囲とし、その歴史や言語、伝統的文化から現代の文化までを幅広く研究対象とすることで、この現代的要請にも応えることができる人材の育成を目指しています。



中国文学専攻

古代から現代に及ぶさまざまな文学・思想を探究し、東アジアの文化の基層と本質を深く理解する。漢字や漢文の知識と、現代中国語の語学力を養うことで、国際交流や国語教育の現場で活躍できる人材の育成を目指す。

現代東アジア言語・文化専攻

中国語や朝鮮語を習得し、東アジアの文化や歴史を広く理解し、朝鮮半島と中国(台湾を含む)が直面する課題と文化現象(文学・サブカルチャー・現代史など)について多角的に検討できる能力を有する人材の育成を目指す。

講義選択の一例

日中の歴史的な交わりについて知りたい
東洋史学専攻科目 + 日本史学専攻科目

東洋全体の文学の流れを知りたい
中国文学専攻科目 + 日本文学専攻科目

日韓の文化を比較検討したい
現代東アジア言語・文化専攻科目 + 日本文化情報学専攻科目

東洋史学専攻

中国を中心とする東アジアの歴史や文化を史料講読から深く理解し、あわせて西洋文明とは異なる特徴を探ることで、現在の世界が直面している様々な問題を解決する人材の育成を目指す。

他学域講義

立命館大学文学部のカリキュラムでは、一つの専攻に所属しながら、実験実習などの一部科目を除く他専攻科目の80%が受講可能となっています。専攻の多様な科目群を履修しながら、自由なカリキュラムを組むことができます。

文学部学域一覧

国際文化学域 英米文学専攻 西洋文学専攻 文化芸術専攻	日本史研究学域 日本史学専攻 考古学・文化遺産専攻	心理学域 心理学専攻 認知・情報&ヒューマンインターフェース分野 生涯発達&ヒューマンケア分野 人格・社会&ヒューマンダイナミクス分野 行動・環境&ヒューマンサービス分野
人間研究学域 哲学・倫理学専攻 教育人間学専攻	地域研究学域 地理学専攻 地域観光学専攻 京都学専攻	
日本文学研究学域 日本文学専攻 日本文化情報学専攻	コミュニケーション学域 言語コミュニケーション専攻 国際コミュニケーション専攻	

学域の4年間

1

基礎学習

1回生では文章作成、情報処理、キャリア教育、自己管理などを総合的に養う授業「リテラシー入門」を通し、大学での学習と学生生活の基本・基礎を学びます。学域の「研究入門」や講義では、2回生以降に所属する「専攻」への準備としての学習を行います。

2

専攻選択

2回生では、中国文学専攻、東洋史学専攻、現代東アジア言語・文化専攻から自分の目的に沿った専攻を選択し、所属します。各専攻での講義や演習、「基礎講読」などの小集団の授業で、専門的な学習を進めるために必要な能力を育成します。

3

専門設定

3回生では卒業論文に向けた「演習」で、専門分野の本格的な学習が始まります。3回生は、大学での学習・生活を充実できる時期。自身の視野や知識を広げるために海外研修やインターンシップに参加し、行動と思考の幅を広げます。

4

卒業論文

4回生では、四年間の集大成としての卒業論文を執筆します。大学での授業とさまざまな場面でえた経験をもとに、毎年多様な卒業論文が執筆されています。自分の力を存分に発揮し、オンリーワンの卒論を書き上げることになります。

講義紹介

中国文学史I・II

六朝時代のさまざまな詩を読みながら、詩人たちがいかに生き、文学作品を残したのか、李白や杜甫などの「唐詩」につながる軌跡などを追う。また『三国志演義』や『西遊記』などの小説について、その母体となった諸芸能や日本・朝鮮の各時代のサブカルへの影響について解説する。

東洋史学史

前近代中国において歴史学は最も発達した学問の一つでした。本講義は、その歴史学の歴史を、漢・司馬遷『史記』や唐・劉知幾『史通』といった代表的な歴史著作を取り上げながら学ぶものですが、それはこれら歴史家の目を通して歴史学を学ぶこととも言えます。

東アジア遠隔講義I・II

インターネット回線を用いて、中国・韓国の学生・院生（広東外語外貿大学東方語言文化学院／釜山東西大学校日本語日本文学科・日本地域学科）と共同で授業を進めます。統一テーマを設定し、各国の現状を報告し討論します。中国・韓国でフィールドリサーチを行う集中講義も実施します。

中国思想概論I・II

「諸子百家」と称されるように中国は思想の分野も古代から多様な発達を見せています。主として孔子・孟子が説いた儒家や老子・莊子の道家の思想など、中国のみならず東アジア世界に深く根付き、またその思想史的展開などについて解説します。

東洋史概論I・II

東アジアの歴史についての概説講義です。近代以前の東アジアは、漢字文化圏とも呼ばれるように中国を中心とした文化圏を形成していました。本講義では、前近代を四つの時期に分け、中国を中心とする東アジア世界の歴史展開を概観します。

中国現地実習／韓国現地実習

中国または韓国という現場で、語学研修とフィールドワークを組み合わせた、2週間から1ヶ月程度の現地実習を行います。事前講義で各地域の概況を学ぶ中で学生が自分なりのテーマを設定し、現地に到着後、現地の言葉でコミュニケーションをしながらリサーチを進めます。

語学教育

東洋研究学域に入学すると、第一外国語として中国語または朝鮮語を選択し、少人数クラスにおいて基礎から応用段階までを学びます。さらに「専門外国語」の授業において高度な運用能力の育成を図り、文献読解力のもとより、豊かなコミュニケーション能力の養成を実現します。

副専攻

基礎を習得するための必修外国語のほかに、2回生からの副専攻でより専門的な中国語・朝鮮語が受講でき、実用レベルの語学力を習得できます。中国語副専攻では、集大成として「中国語パフォーマンスコンテスト」があります。

エリアスタディ

エリアスタディとは、現地での実習を通じて歴史や文化などの理解を深めるとともに、短期間の海外経験などを活かして視野と行動範囲を広げること、将来国際的な活躍ができる人材の育成を目指しています。現代中国、韓国、東南アジア、北米、イタリアの5つのコースが設定されています。

留学プログラム

海外留学プログラム

「グローバルゼーション」が進む今日、将来世界を舞台として活躍する人材の育成のため、本学では様々な留学プログラムの開発・充実を図ってきました。本学の海外留学制度は種類と規模の両面において、全国の大学の中でも際立つ存在です。

- イニシエーション型 —————○
語学力の増進と異文化体験を主要な目的としたプログラム。
- モチベーション向上型 —————○
交換留学に準ずるレベルで、語学力を高めながら、外国語による現地での講義を提供するプログラム。
- アドヴァンスト型 —————○
正規の学部留学に匹敵するプログラムで、自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主たる目的とする。
- 学外機関によるプログラム —————○
協定校等によるプログラムについて本学が紹介・募集するものです。

交換留学協定校(中国・台湾・韓国)

南開大学(天津)	慶熙大学(ソウル)
上海交通大学(上海)	高麗大学(ソウル)
深圳大学(深圳)	淑明女子大学(ソウル)
對外經濟貿易大学(北京)	成均館大学(ソウル)
吉林大学(長春)	中央大学(ソウル)
東北財経大学(大連)	延世大学(ソウル)
西南政法大学(重慶)	梨花女子大学(ソウル)
西南大学(重慶)	亜州大学(水原)
広西師範大学(桂林)	釜山国立大学(釜山)
武漢大学(武漢)	
北京航空航天大学(北京)	
南京大学(南京)	
香港中文大学(香港)	
香港大学(香港)	
国立台湾師範大学(台北)	
国立政治大学(台北)	
東海大学(台中)	
国立中山大学(高雄)	

進路・就職

予想される進路

民間企業（貿易・商社・百貨店・流通・旅行関係など）
マスコミ・出版関係
東アジアを中心とした国際機関
公務員
教員 大学院進学（研究者）

主な就職先

財務省 文部科学省 京都府警察 高等学校教員 中学校教員
日本赤十字社 伊藤忠商事 帝国データバンク 三菱東京UFJ銀行
京都信用金庫 ゆうちょ銀行 三井住友銀行 明治製菓 ローソン
TOTO トーハン ロート製薬 京セラミタ エスビー食品 ワコール
ソフトバンクモバイル KDDI 中日新聞社 公文教育研究会 京都新聞
全日空トラベル 近畿日本ツーリスト JTB 日通旅行



中国文学



東洋史学



現代東アジア
言語・文化



R



東洋研究学域

多彩な東洋の世界から、
あなたは何を学びますか。

東洋研究学域ホームページ
中国文学専攻ホームページ
東洋史学専攻ホームページ
立命館大学入学センター

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/toyo/index.html>
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/cl/index.htm>
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/eah/index.html>
<http://www.ritsumei.ac.jp/ritsnet/> Tel. 075-465-8351 (月曜日～金曜日 9:00～17:30 まで)

東洋研究学域

検索